

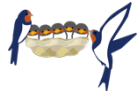
行事予定表		
1	木	
2	金	読み聞かせ（5歳児）14時～
3	土	憲法記念日
4	日	みどりの日
5	月	こどもの日
6	火	振替休日
7	水	生活写真撮影（3・4・5歳児）
8	木	
9	金	生活写真撮影（0・1・2歳児）
10	土	
11	日	
12	月	体操
13	火	ピヨピヨ
14	水	お弁当デー/だいちぐみ保育参観
15	木	カレーの日
16	金	ほしぐみ保育参観
17	土	
18	日	
19	月	体操
20	火	ひかりぐみ保育参観
21	水	
22	木	にじぐみ保育参観
23	金	避難訓練
24	土	
25	日	
26	月	体操
27	火	
28	水	リトミック
29	木	誕生会
30	金	
31	土	

桜のはなびらが風に舞って
あつという間に散っていった

風薫る五月、やわらかな新緑が野山に萌え
花々が咲き競い

つばめがやって来て巣作りを始めた
小鳥が歌い、生命が躍動する

子どもの季節
ふたばの季節
若葉の中でたくさん遊んで
大きく伸びよう



今月の予定から・・・

●読み聞かせ（5歳児）（2日）

牛久市の幼児教育アドバイザーの先生方の読み聞かせがあります。今回はどんな絵本を読み聞かせてくれるか楽しみです。

●生活写真撮影（7日・9日）

・園生活の様子（自由あそび・食事の様子など）を写真屋さん撮影します。

※撮影した写真は先日配布しましたスナップスナップの閲覧・購入もできますので、ご活用ください。

・7日・・・だいち、たいよう、そら
・9日・・・にじ、ひかり、ほし

●保育参観

・5/14（水）だいちぐみ
・5/20（火）ひかりぐみ
・5/25（金）ほしぐみ
・5/25（木）にじぐみ
＊詳細は、後日お知らせ致しますが、保護者2名までの参観が可能です。

●ピヨピヨひろば（13日）

・地域の子育て支援「ピヨピヨひろば」として、月1回設定保育を実施しています。園開放も行っていますので育休中の方もどうぞ遊びに来て下さい。

●おべんとうデー（14日）

・子どもたちが待ちに待っているおべんとうデー。いつも幸せそうに食べています。お子さんが好きなものと一緒に愛情もたくさん入れてあげて下さいね。※気温が上がってきました。お弁当箱の上に保冷剤（名前記入して）も必ず入れて下さい。（お預かりしたお弁当は冷房の効いた給食室で保管します。）

※お弁当の中に入れない物は、要冷蔵の物（ヨーグルト・チーズ等乳製品）、コンニャクゼリーなどです。また、ぶどう・ミニトマト・ウズラの卵等は、誤嚥窒息に危険があるので、入れるのであれば4等分に切つて下さい。※別途配信した資料参照。

●カレーの日（15日）

・たいようぐみ・そらぐみのお子さんは、エプロンと三角巾の用意をお願いします。4歳児は待ちに待った「野菜切りデビュー」です。5歳児は、野菜切りと釜戸係を行います。だいちぐみは、自分のフルーチェを

作り、ほしぐみは、野菜洗いを担います。※5歳児（そうぐろー）の保護者の方は年に1回カレーの日の見学が可能です。ご希望の方はお知らせください。

●避難訓練（23日）

・毎月の避難訓練で、地震・火事等を想定して命の大切さや避難の仕方を学びます。

●リトミック（3歳児・4歳児・5歳児）（28日）

外部の講師中島先生による天野式リトミックです。ピアノのリズムに合わせて体を動かすことを楽しみますよ。

●誕生会（29日）

・誕生会では、5歳児がスカーフを首に巻き、はじめの言葉と3・4・5歳児の誕生日を席までエスコートします。1年に1回誕生日にとって大切な日を全園児でお祝いします。※誕生日の保護者の方は誕生会の見学が可能ですので、ご希望の方は、お知らせ下さい。

★お知らせ★

4月1日より早朝非常勤保育士として吉村 衛（よしむら まもる）が新しく仲間になりました。また、5月1日より唯根梨奈（ゆいね りな）が育児休暇から復帰いたします。どうぞよろしく願います。

「虫も殺さぬ・・・」

三寒四温、寒さと温かさが交互にやって来て、次第に春になるというが、地球もとうとう温暖化で狂ってしまったか、三月に夏日が続くと、急に真冬に戻ったりして、体調を崩す子もいた。北竜台の始業式は、近くの愛国学園でお花見始業式。芝生の庭、桜の大樹の下でいっぱい遊んで、お弁当を食べた。時折、風が吹くと花びらが舞い、子ども達は手をかざし、雪が降っているみたいと走り回っていた。三寒四温、啓蟄、山笑う、桜吹雪、春の暖かさと、おだやかで美しい景色を思い起す美しい日本語だ。しかし、今年の春は、強烈であった。啓蟄が過ぎて、冬に逆戻りしたり、虫達も、地上に出て行って良いのか、さぞ困惑したことだろう。三月中旬、夏日が報じられた日、私の部屋の窓ガラスに、カメ虫の大きなヤツが張り付いていた。翌日に、冬に逆戻りして、ヤツはどうしたろう。春らしくなっ

た四月中旬、外来種らしき大きなカミキリ虫がいた。捕まえると、ジリジリと歯を鳴らし、どう猛そうなヤツだった。早速、踏みつぶし、駆除した。すると、それを見ていた子が、「いーけないんだ！虫だって生きているんだ。殺してはかわいそうだよ」と非難してきた。「あのね、虫の中には、害虫といって、悪い虫がいるの、カミキリ虫は、大切な木を枯らしてしまふの、だから、見つけたら駆除（殺す）とは言わずにしなければならぬの」と説明した。それでも「虫だって生きているんだヨ」と喰いさがって来た。殺生を禁ずる仏門の小僧はやかいかいである。昔の悪ガキ（今もいるが）は、善悪以前に、本能的に、虫や蛙や小動物を獲るのが好きである。そして、時には残酷と思うほどの命の扱いをする。そんな時は、命の大切さを教えるチャンスで、厳しくたしなめる。春、田圃の蛙を捕えて、牛乳パックに押し込み、自慢げに持ち帰った子がいた。パックを開けると大量の蛙が圧死し、ドロドロと出て来たことがあった。そんな時は、「こんなに押し込んで息が出来ないし、さぞ苦しかったよ。蛙さんだって、水辺でピョンピョン飛びはねて遊びたかったろうに、かわいそうなことしたね。死なせるために、捕ったんじゃないよね。次は、二匹ぐらいにして、死なせないようにしよう」と言うのと、ウンと言ってしよんぼり下を向き、何かを感じていた。こんな話は、子ども達と生活していると山ほどある。つばめの巣をカギの付いた棒でたたき落とし、ヒナを死なせた子ども達もいた。つばめは、遠い南の国からやって来て、日本で子育てを一生懸命にしている話しをすると、みんなシュンとして、涙目になった。大人の私達だって、命をもらって生きているのだ。子ども達は命の大切さと、狩猟本能、好奇心、探求心のギリギリの接点で、何かを感じ大人になっていく。「虫も殺さぬ・・・」という言葉があるが、大抵はその後に「・・・冷たい悪い奴」と続く。子ども達は、「虫を殺して、命の大切さを知り、」温かい人になる。